

2017. 11. 8 (水)

働くとは—お金のためだけではなく、 幸福のためです

陳 立 行

働くとはお金のためだけではない

先日、打樋先生から「働くとは何ですか」というテーマをいただきました。「働くとは」身近なことだけれども、しゃべろうとすれば、とても難しく感じました。今日は、できるだけ教員の学問的話ではなく、皆さんの人生の先輩として感じていることについて、この話を進めていきたいと思います。

多くの学生は、「働くとは何ですか」と問われると、稼ぐために、自分や家族を養うため等、「お金のため」といったような答えが恐らく多いと思います。本当にそうでしょうか、皆さん、一緒に検証しましょう。

日本の統計によれば、大学卒業生のサラリーマンの生涯収入は、22歳から働いて60歳までの収入の平均は2億5,000万ぐらいだそうです。

今、皆様に聞きます。もし、22歳のときに3億の宝くじに当たったら、就職するか、しないか、皆さんの意見を聞かせてください。

まず、就職したい人、手を挙げてください。(多くの人は手を挙げた)

オーケー。

次は、3億円当たったら就職しない人、手を挙げてください。

オーケー。3、4人ですね。

3億の宝くじに当たっても、まだ就職する人が多数で、しない人は少ないですね。皆様の回答は何を意味しているかというと、私の理解では、多くの人は、お金以外のものを働くことを通じて求めたいということでしょう。

しないと答えた人は、恐らく、あわてては就職しないという意味で、もう3億があるから、好きなことをゆっくりと探そうと手を上げた3~4人の学生の考えでしょう。一生働きたくないと私は思わないんです。

働くことを通じて、お金以外、何を求めるか

働くことを通じてお金以外、何を求めるかということ、今日、一緒に考えていきたいと思います。

この質問に対して、「何も考えていない。大人になると働かなければならないと、世間から言われるから」と答える人がいるかもしれませんが、つまり、世間の目を気にする人がいます。また「働かないと、人と関わらず、社会との接点もない。」という社会とつながりたい考えを持つ回答もあると思います。

実は、働くことを通じてお金以外、何を求

めるかに対して、私たちの多くは、はっきりと答えません。皆さん、日本の平均寿命は、男性は81、女性は87になっています。22歳は、まだ4分の1に過ぎないでしょう。これからどういうふうに充実して、幸せにして、自分はどこまで何ができるかという謎に向かって試していこうという気持ちがある人は手を上げてください。(多くの人は手を挙げた)

それですよ。

仕事を通じて、お金を得る以外に、自己実現できるという学問的な言葉があります。わかりやすく言えば、仕事を通じて自分はどこまでやっていけるか、どれ程社会に貢献できるかという意味です。

働くことを通じて、他人からの感謝、人間としての尊厳を感じるということを求めると思いますが、実は、最も根本的には、働くことを通じて自分は充実できるし、仕事の達成で快感を得られます。つまり働くことを通じて、自分は自信を感じ、幸せを感じることを求めることでしょう。

働くことが幸福と自動的につながるわけではない

とは言いながら、働くことと幸福との関係に疑問を持っている学生はきっと少なくありません。相次ぐ過労死の報道、自分に合わない仕事だったら、変な上司にあたったら、ブラック企業に入ったら、幸せがどこにあるのだろうか、苦労だけではないでしょうか。

確かに、これらの現象は社会的事実です。皆様の疑問を解くために、幸せとは何でしょうか、幸福はどこからきたかということについて少し哲学っぽく考える必要があるでしょ

う。

まず、幸せ、幸福ということは、人間の感覚です。客観的に存在することではなく、自ら感じた主観的なことです。例として挙げると、キャンディ、飴は客観的な存在としての甘いものです。二十何年前、国連で働いていた時、フィリピンのスラムで、一個のキャンディに対する子供の反応は、今でもはっきり覚えています。子たちはキャンディをもらったときのすごく喜んで幸せな顔を見せてくれました。その幸せな顔は今でも頭に浮かんできます。だけど、フィリピンから家に戻って、そのキャンディをうちの子どもに「お土産だよ」といいました。「ありがとう」と返事してから、そのキャンディを食べなくて、完全に無視されました。キャンディは甘いもので、全然変わっていないんですが、同じものをもらっても、人によって感覚が違います。なぜでしょうか、人間の感覚は自分の経験から生まれたもので、今までの経験によって、同じ客観的物や事に対して、幸福は感じるか、感じないかに差が現れてきました。

日本語にことわざがあります。はっきり覚えていないけれども、苦あれば楽あり。逆に言えば、楽があれば苦が待っているに違いないというものです。

ここで何を言いたいかというと、働くことを通じて幸せを求めたい場合、その幸せがどこかであなたを待っていることではありません。働くことを通じて、いろいろ経験して、いろいろ苦勞して、いろいろ達成することから、自ら幸せを感じることで、言い換えれば、幸せを自分で見つけることでしょう。

苦あれば楽あり、苦を知らない者は楽も知らないといわれています。この意味で、幸せを手に入れることには苦が必要不可欠なことで

しょう。だからこそ今、皆様、不自由がない
 楽な生活の日々の中で、いかに苦を味わうこ
 とが将来の楽につながるために重要なこと
 でしょうか。今は若者（15歳～34歳）が会
 社をやめた理由、1位は「労働時間・休日の
 条件がよくなかった」という統計がありま
 す。大学時代、朝寝坊で遅刻したことはだれ
 しもあるかもしれません。朝一分でも多く寝
 たくて、早く起きるのは確かにつらく苦し
 みます。もしあなたが、学生のころから遅
 刻しないように朝寝坊の苦を乗り越えれば、就職
 後、少なくとも朝の出勤に苦は感じなくな
 るでしょう。

日常生活以外、積極的にいろいろなことに
 挑戦し、失敗の経験から、苦を味わい、苦を
 乗り越えることも必要不可欠だと思います。別
 の言い方では、あなたの楽やあなたの幸せは
 あなた自身で決める訳です。誰からも与えら
 れるものではないのです。私の知り合いは、
 ベルギーの人で社長をしていました。12億
 米ドルを残して自殺しました。なぜかとい
 うと、彼は2代目の社長で、親から受け継い
 た財産と会社の経営は彼の好きなことではな
 く、挫折と失敗を乗り越えることができなかつ
 たからです。これは10年前の出来事でした。

働くことを通じて、幸せを見つけることは
 自分にしかできません。そこに辿り着くまで
 には苦勞と失敗を乗り越える経験は重要です。

幸せを感じる知恵

実は、現実社会においては働くことに対し
 て、幸せに感じていない人は多くいます。理
 想として、好きなことをやれば幸せと思うけ
 れども、世の中は、全員が自分の好きなこと
 を仕事にできるわけではありません。

なぜかといえば、社会が複数の人間の集ま
 りだからです。特に働くということにあたっ
 ては、立場によって、求めることが違いま
 す。労働者は、自分のいきがいと幸福を見つ
 けられる職場を求めるのに対して、経営者
 は、従業員たちが協働し合い効率のよい職場
 を求めます。皆様はレストラン等の
 サービス業でアルバイト経験を持つ学生が多
 くいると思います。お客様はウェ이터とし
 てのあなたが幸せかどうか考えていますか。
 そうではないでしょう。お客さんは注文をし
 て、早く持ってきてくれることを求めます。
 要するに、お客さんは、自分のニーズ
 を満足してもらいたい働き方を求めるので
 す。この時、ウェ이터としてのあなたの感
 覚はお客さんのあなたのサービスに対する満
 足から得られます。お客さんの笑顔と感謝
 の言葉は疲れを癒し、逆にお客さんの無理はス
 トレスになるに違いありません。

様々な働く環境の中で、自分が好きなこと
 を自分の思いどおりに動いていることは稀な
 のです。これを理解しなければなりません。
 様々な立場、様々な目標を持っている人々の
 集まりである職場はいうまでもなく、親密な
 関係を持つ家族を考えてみましょう。親が期
 待するように子供が行動するわけでもなし、
 子供が期待するように親が動くとは限り
 ませんね。親子関係であっても、常に調整す
 る努力があってはじめて、歩み寄ることで幸
 せを感じるでしょう。

この意味で、働くことを通じて、幸せを見
 つけるためには、やりたいことと、関係する
 人のニーズとを調整しないとはいけません。こ
 こでの、重要なポイントは、同じ仕事でも自
 らやりたいことと他人にやらされることによ
 って、感覚が違います。自らの意欲を込める

ことは幸せを見つける基本中の基本です。行動に対する意欲を湧くことが幸せになる方法です。

意欲が湧く方法は人によって違います。私は、仕事終え、電車で家に帰る際、夕飯に何を食おうか考えると意欲が湧きます。自分の思うとおりに作った料理を食べると余計においしく感じます。逆に、何も考えずに、冷蔵庫にあるもので作った夕飯を食べてから、満腹になりますが、何か足りない感じがたまにあります。これは何の意味かという、積極的に物事を考え、周り調整しながら、実現した場合は、ささやかなことでも達成感と幸福感を得られます。

皆さんは、新入社員として、命令を待つよりも自ら積極性をもって、周りのニーズと合わせて、仕事に携わることが満足度の向上につながります。将来、皆さんは部下を持つ上司になる場合、命令ではなく、部下、同僚たちに、積極的に仕事に加えてもらえる余地を作ることが重要です。同じように、将来、親になったら自分の子どもに対しても、あれこれやりなさいと言うことはよくありません。賢いやり方は、やりなさいと言わないで、彼らをその方向へ導いて、自らやろうと思わせることです。このようなやり方は効果もあれば、皆の幸せともつながっています。結論としては、働くことを通じて幸せを得られるといえますが、自分で見つけ、自分で作るのがとても重要です。その方法としては周りの状況をよく把握し、それに合わせて積極的に行動することだと思います。

限界を感じれば、方向変更

もし、運が悪くブラック企業に入ったら、

いくら調整しようとしても、生き甲斐を感じなくなるかもしれません。しかし、いくら絶望しても、皆さん、絶対に自殺しないでください。命は神聖なものです。

絶望したときに、考え方の方向を変更すれば、新しい希望の始まりになるかもしれません。楽になるまで、努力が必要ですが、努力の限界を無視することはいけません。皆さん、走る経験がありますね。最初の段階で、胸も痛いぐらいでつらいですが、それを超えてしまうと楽になり、気持ち良く走れます。ここのポイントは、自分の体力がそのつらさを乗り切れるかどうかということです。

職場は、自分だけではなく周りの要素も重要です。自分の体力、精神力の限界を少しオーバーして努力すれば、自分の能力と限界の向上とつながりますが、もし明らかに、自分の限界を遥かにオーバーし過ぎると感じる場合、方向チェンジしたり、考えをリセットしたりする必要があります。絶望と感じる時、恐らく、自分が努力しても無駄な状態だと判断すればいいと思います。その時、別の方向へ、角度を変えたら、見える風景は違います。人生においては、失敗と成功、絶望と希望の繰り返しです。

絶望と感じる時、周りと相談しながら、考えをリセットすれば、救いになりうると思います。別の角度から物事を見る力が必要で、方向チェンジした方がいいと思います。

最後になりますが、働くことを通じて、お金以外、得られたものは喜怒哀楽の人生感覚で、その相互作用から幸せが生まれることでしょう。その幸せは与えられたものではなく、個々の人自身の知恵と努力の結果です。

(社会学部教授)